

# ふじ草の会だより



福寿草一元日草とも呼ばれる

京

福寿草の会  
愛川町介護者の会  
第149号  
平成31年1月7日  
連絡先 愛川町社会福祉協議会  
Tel 046 (285) 2111

明けましておめでとう ございます  
亥年一猪年ですね。



“猪突猛進”は、私には、もうムリ。昨年末のそうじ中に足をすべらせて転び、ドアに頭を打ちつけてしまいました。あわてず、急がず、一步一步着実に歩みたいのです。今年も、よろしくおつき合い下さい。



## 1月のつどい

22日(火) 12:30~ ※参照  
13:30~15:00

場所 町福祉センター3階会議室

内容 話し合い・情報交換

※今回から、ご希望の方は、12時半~同じ場所で“一緒に昼食を”ということになりました。

会費は500円、当日15日(火)までに、役員または小沼(285-4166)まで申し込み下さい。

これは、11月のつどいの話し合いの中で、一人暮らしになった方が増え、一人で食べるのは、さみしいとの声があり、せめて定例会の時に、一緒に食べよう、ということ、決まったものです。

※定例会については、今までどおり、参加申し込みは不要です。定例会のみのご参加も、もちろん大歓迎です。

## 11月のつどいから

11月20日、13名の会員と地域包括の村上保健師が参加して下さいました。

近況報告、話し合いの中から

- 施設や病院では、人手が圧倒的に少ない。「トイレに行きたい」「待ってね」...
- 施設で、ブラジル人の介護士が多かった
- 延命治療のこと

Aさん「医療でもって治せなかったものは寿命です。管などにつながれて、生かされ、苦しい時間が長引くのなら、早く眠らせてあげて下さい」と言ったところ、医者「そうはいきません」とおっしゃったが、配慮はして下さったように思う。村上保健師から/家族でも、それぞれの立場や思いは微妙に違うもの。話ができるうちに、本人や家族とも、よく話合っておくことが大事ではないでしょうか。



## 福寿草の会の歩み

発足は平成6年。役場主催の「介護家族のつどい」が開かれ、当時は“寝たきり老人”“呆け老人”と言われる人々を自宅で介護している“お嫁さん”が主に参加しました。

家の中で、もって行き場のない悶々とした感情を抱えていた方たちが、胸の内を涙ながらに語り、聞き、そして、なぐさめ合い、励まし合った一時でした。

この会を続けたい、という参加者の意志で、保健師さんに労をとってもらい、発足。

以来、20数年、続いてきました。現在は、介護する家族のいる方、介護に関心のある方など、20数名の会員が2か月に1度のつどいを開き、話し合い、情報交換、学習会、施設見学、他地区との交流などを行っています。

平成12年に介護保険制度が導入され、介護を社会全体で担うという仕組みができました。施設も専門職チーム、相談機関も、格段に充実してきていると思います。

しかし、急激な高齢化により、要介護者の増加、認知症の増加、そして、介護者の高齢化には、いろいろな問題が追いつかないのが現状です。

会員自身も高齢化、独居になるなど、悩みや不安を抱えています。だからこそ支え合い、励まし合い、学びながら、これからも、がんばって行こうと思います。

## 低温やけどにご注意!!

広報1月号に掲載されていましたが、ところが、やってしまったのです。

- 73歳男性 / 金属性湯たんぽで、12/31夜~朝、お酒をいつも以上に飲んでいて、湯たんぽをいつも以上に熱くしてしまっ。1月1日の朝だったので、すぐに医療機関に受診できず、清潔なガーゼでおおい、4日に受診。幸い浅い傷だった。



君がいるから だいじょうぶ  
君さえ居れば だいじょうぶ  
君が居たから だいじょうぶ  
ところで君は 誰だっけ?

わからないことだらけの渦の中  
ホクは楽しく泳いでる  
雪虫みたいに フワフワだ  
ところでホクは? ホクは誰?

みんなどこかへ行っちゃった  
たった一人のホクが居る  
みんなみんな さようなら  
ホクも帰ろう 家はどこ?

おふくろ たいまっ 帰ったよ  
(館野雅子)

## 悲しいお知らせ

館野雅子さんが介護されていたご主人 傳様が、12月19日に、お七くなりになりました。82歳でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

表皮を取り、ワセリンを塗り、ガーゼでおおうの処置。家でも、2~3回取り換える。

- 85歳女性(20年前のこと) / ホッカイロを、ハンカチで包んだだけで、くつ下の中に入れて一晩。しっかり大きな水疱が。すぐに受診。完治まで、時間がかかった覚えが。皆さん、こんな不注意しないでね! 低温やけどは、こわいです。

